島根大学教職大学院は山陰両県の教師教育を担うための教職大学院として設置されています

島根大学教職大学院は，島根・鳥取両県の教師のキャリア発達に貢献するための大学院として文部科学省に設置認可されています。山陰両県の教師の職能発達に資することが目的なため，島根県・鳥取県から毎年数名ずつの現職の先生方が派遣されています。

Q & A（大学院生がよく後輩に聞かれる質問項目をまとめてみました）

就学途中で教員採用試験に合格した場合，採用はどうなりますか？

たとえば，入学前や1年生のときに合格した場合，島根県や鳥取県等では，大学院修了まで合格を維持したまま待って頂ける制度があります．

教員採用試験の勉強をする時間はありますか？

1年目の大学での講義は1日2～3コマです．それ以外の時間に教員採用試験の対策をして，1年目に合格する大学院生もいます．(平成29年度の1年生は83％が合格しました)

2年目は，学校での実習以外は教員採用試験の対策に取り組んでいます．

学費はおおよそ年間いくら位必要になりますか？

入学料は282,000円，授業料は535,800円（年額）(いずれも平成29年度)です．入学料・授業料の免除制度や奨学金制度もあります．詳しくは，島根大学教育・学生支援部学生支援課にお尋ねください．

アルバイトができる時間的な余裕はありますか？

大学での授業や実習以外に，アルバイトや自主的な活動に取り組んでいる大学院生も多くいます．大学院での学修と，そうした活動の両立は十分可能です．

実習は，どのような学校で実施するのでしょうか？

実習は，松江市内の公立小中学校で行います．希望する校種によっては，高校や特別支援学校等での活動も可能です．

実習校ではどんなことをするんですか？（授業や部活等）

研究テーマに関するデータ収集(観察や調査)と授業実践が中心です．その他，担当学級の学級経営の補助や，学校行事の運営補助，中学校では部活動指導の補助など，授業以外にも学校の様々な活動を経験します．

専門教科の授業がありますか？

教職大学院では，教科指導力の向上のため，教科の内容を深く学び，教材づくりや授業のデザインを考える授業があります．また，研究テーマによっては各教科の教科教育の大学教員が指導教員になりますので，ゼミ形式で教科の専門性を伸ばすことも可能です．

教育学部以外の出身なので、不安があるのですが？

大学での授業は少人数なので，大学院生のみなさんそれぞれに配慮した授業を行っています．その他，大学院生同士で，それぞれの専門性や得意分野を生かして学びあい，支えあっています．実際，教育学部以外から進学してきた院生も多く在籍しています．

参考URL： http://www.edu.shimane-u.ac.jp/daigakuin/edu/

島根大学大学院 教育学研究科 教育実践開発専攻（教職大学院）

入学定員	17名（学部新卒学生等：9名程度／現職教員8名程度）
修了要件	修業年限（2年間を標準とする※1），修了単位（46単位）
担当教員	専任教員15名及び兼任教員59名
学　　位	教職修士（専門職）

※1 幼稚園教諭免許状または中学校教諭免許状（いずれも一種であること）を有する者が小学校教諭一種免許状を取得できる「長期在学（3年）プログラム」を開設しています。

島根大学教職大学院 平成30年度「Ⅱ期」入試日程

- 出願期間　平成30年1月15日(月)～1月19日(金)
- 試験実施日　平成30年2月14日(水)

いまなら…まだ間に合う…

問い合わせ先：島根大学教育学部事務室 〒690-8504 島根県松江市西川津町1060
Tel 0852-32-6251　E-mail edu-jimu@office.shimane-u.ac.jp

島根大学 教職大学院のススメ2018

― 教員採用試験合格への“最短距離”として ―
大学院進学を考えてみませんか

2017年4月，教職大学院（教育学研究科教育実践開発専攻）に進学した学部新卒者は7名でした。1名は教育学部出身。4年時に教員採用試験に合格した上で「大学院在学者・進学者に対する特例」（採用候補者名簿登載期間の延長）の適用により大学院に進学した学生です。

あとの6名（教育学部2名，総合理工学部3名，生物資源科学部1名）は4年時の教員採用試験で不合格となり教職大学院に進学しましたが，前期授業科目（実習を含む）を履修しながら，教員採用試験の筆記や面接の勉強を重ね，うち5名の学生が1年目にして見事，採用試験に合格しました。

言うまでもなく大学院進学の目的は教員採用試験の合格ではありません。しかし，このパンフレットに述べるようなさまざまな学修の仕組み（授業内容や授業方法），豊かな学修環境（高度な教育実践力をもつ教員や現職教員学生と一緒に学ぶ環境），コーディネートされた「自分の実習校」でインターンシップを積む経験などなど，たった半年ではありますが教職大学院での本気の学びが，結果的に「合格への最短距離」になっていた！という可能性は高いのです。

子どもの「主体的・対話的で深い学び」が重視される新学習指導要領のもと，これからの教員には多くの力量が求められます。独自の教材を発見し開発する力，子どもの実態に即応し柔軟に授業を展開する力，個の特性を活かしながら学びの集団を構築する学級経営力，保護者や地域の人々との関係を構築する力…などなど。こうした力は，講師として実際に学校現場に立ち，圧倒的な「教育の実際」を日々経験することによって身についていくものかもしれません。

それが卒業後，講師として学校現場に出る大きなメリットでしょう。しかし一方，一旦，学校現場に出たならば，講師であっても正採と同等に先生としての働きが期待されており，授業準備や校務分掌など日々の慣れない仕事，子どもや保護者との関係づくりなどに追われる中，教員採用試験の勉強をする時間が十分にはとれないリスクもあるはずです。

教員採用試験合格ということだけではなく，今後４０年にも及ぶあなたの教員としてのキャリアをどう出発させるのがよいのか，その選択肢の一つとして教職大学院への進学をぜひ考えてみてください。このパンフレットがそのお役に立てば幸いです。

島根大学大学院教育学研究科教育実践開発専攻（教職大学院）
専攻長　　肥後 功一

島根大学教職大学院で，教育の「今」と「未来」を学び合う

多彩な授業のラインナップ

	授業デザイン領域	学校創造領域	子ども支援領域
共通科目	● カリキュラム改善の事例研究 ● カリキュラム開発の実践的研究 ● 教科指導力向上のための授業研究と課題	● 学級・学校のマネジメントと課題 ● 社会変化と学校役割 ● 社会変化と教職倫理 ● 現代的・地域的課題に基づく生徒指導の実践的研究	● 子ども理解・保護者支援のための学校教育相談 ● 授業のユニバーサルデザイン実践演習 ● 特別支援教育の視点に立つ学級・学校経営
授業デザイン科目	● 学力向上を目指した教育方法の探究 ● 教育素材の研究と新しい教材開発 ● 現代的課題に対応した授業デザイン論 ● 子どもに応じた教育内容の開発 ● 授業デザインのための学習観の探究	● エビデンスに基づく授業改善 ● へき地・複式教育の視点から見た学級・学校経営 ● 学校経営の国際比較 ● 多様化時代の学校リーダーシップ ● 地域の教育拠点としての学校マネジメント	● インクルーシブ教育研究 ● 特別支援教育コーディネーター研究 ● 発達障害児診断・アセスメント研究 ● 特別な支援を要する子ども理解と教育支援A(知), B(肢), C（病）
		学校創造科目	子ども支援科目

教職大学院で学ぶ内容
（学部での学びの深化）

3つの領域ごとに共通･選択科目を設定し，現代的教育課題に対応できる教師の育成をめざしています．

たとえば，『カリキュラム改善の事例研究』の授業では，新学習指導要領で重要とされる「社会に開かれた教育課程」について，教師はもとより家庭や地域の人々が，児童生徒の「学習の在り方」を展望していく取組を考察しながら，学校と地域が相互に連携･協働していくための企画力を身につけていきます．

また『学力向上を目指した教育方法の探究』の授業では，各教科等に応じた個別的指導のもと，教科教育に関する知識･技能を活用した効果的な指導の開発と実践を行っています．

「これからの学校」や「これからの学び」を意識することで，従来のカリキュラムでは不足しがちだった内容に焦点をあて，多様な活動を通して学部教育(学部専攻)で身につけた教科専門の力を，さらに引き続き伸ばしていけるよう設計されています．

従来とは異なる視点からの事例研究や模擬授業，ケースメソッドなどの手法をとおして，また在学する2年間貸与されるPCとタブレットや遠隔地をインターネットで繋ぐWeb会議システムなどのICT機器を活用して、山陰地域の教育課題に迫っていきます。

一週間の流れ

1年目は実習日と実習予備日が設定され，毎週，協力校で実習を行います．2年目は，原則として実習のみです．実習協力校との相談によって，週1～2日程度の実習を行っています．

時間割からみる，大学院生の1年間

（前期）	月	火	水	木	金
1･2		実習日	共通科目	←太枠は必修科目	
3･4	共通科目		学校創造科目	共通科目	共通科目
5･6	学校創造科目			共通科目	学校創造科目
7･8	授業デザイン科目			授業デザイン 子ども支援科目	授業デザイン
9･10		課題研究Ⅰ		子ども支援科目	
集中・不定期 1年→	学校創造	授業デザイン	実践研究Ⅰ		
集中・不定期 2年→	学校創造	子ども支援科目	子ども支援科目	課題研究Ⅱ	実践研究Ⅱ

（後期）	月	火	水	木	金
1･2		実習日	実習予備日	授業デザイン科目	
3･4	共通科目			共通科目	共通科目
5･6	共通科目			共通科目	学校創造科目
7･8					学校創造科目
9･10		課題研究Ⅰ			
1年→	学校創造	授業デザイン	子ども支援科目	子ども支援科目	実践研究Ⅰ
2年→	課題研究Ⅱ	実践研究Ⅱ			

（注：平成30年度以降，院生の学びをより深めることをねらい，時間割の見直しを予定しています

院生（教員採用試験合格者）の声

私は現在大学院1年生ですが，島根県教員採用試験で中学校に合格しました．昨年(学部4年次)は高校を受験しましたが不合格となり，それを機に自らの学び足りなさを痛感して大学院への進学を決めました．学部4年間では教科の専門を学んできましたが，学校教育全般に関する学びを十分にできなかったという思いがありました．

講師として学校現場にでれば，日々子どもたちと共に貴重な経験を積めるであろうという思いもありましたが，大学院で島根県が抱える現代的な教育課題に対する授業内容や方法，学校経営，教育相談，生徒指導などについて様々な文献をもとに熟考し，教育を広い視野で捉える時間をつくりたいと考えました．

講義は現職教員の大学院生の方々と共に，基本的にディスカッション形式で行います．初めは話し合いに上手く参加できず，もどかしい思いをしました．しかし，学校教育に関わる様々なテーマについて自分なりに考えを語ることや，他の学生の多様な経験値に基づいた意見を聞くことは，**教師を志す上で非常に貴重な経験であるし,同時に教員採用試験対策につながっていたように思います．**

実習は，松江市内の高等学校で様々な教科の授業観察や授業実践，学級経営への関わり等の貴重な体験をさせていただいています．このように，教職大学院では理論と実践の往還を通して，充実した学びが保障されています．学校現場にでる前に、まだ学び足りていないという思いのある方は，ぜひ進学を検討してみて欲しいです．

多忙な教員生活の中で，勉強しながら採用試験合格を目指すことに自信がなく不安を抱いていた私は，講師として働くか迷いながらも，現場よりも勉強時間が確保でき，なおかつ教職に対して学びを深めることのできる教職大学院へ進学することを選択しました．

大学院では，日々の授業が全て教員採用試験の対策に直結していると言っても過言ではありません．最新の教育現場の理論等を学びつつ，協力校で実践を行うことが出来ます．教職大学院の一番の強みは，現職教員院生の先生方と一緒に勉強できることだと思います．理論的な知識だけではなく，先生方から実際の現場の状況を聞き，イメージしながら学べることは，「活きる学び」に繋がっていると実感しています。

実際に，私が採用試験の面接で聞かれた内容は教職大学院の授業で学んだことや考えたことばかりでした．また，教員採用試験の対策に関しては，現職の先生方に模擬授業を手伝っていただいたり，教育委員会や管理職で働いておられた先生方に面接練習をしていただいたり，手厚くサポートしていただきました．そのおかげで，本年度，教員採用試験において合格をいただくことができました．

教職大学院には，学生を応援してくれる環境が整っていると思います．教職大学院に進学することは一見すると遠回りに思えるかもしれません．私自身，入学当初は，同期が続々と教員として働き始める中で，自分だけ置いて行かれているような状況に劣等感や焦りを感じていました．

しかし，現在では，自分が大学院に進学して良かったと自信を持って言えます．それはこの半年間で得てきた学びが自分のものになり，早く現場で活用したいという思いが膨らんでいるからです．悩んだ末の大学院進学でしたが，勇気をもって進学を決めて良かったと思っています．

院生室での暮らしと現場感覚の醸成
（現職教員院生と共に学ぶ効果）

学校をよく知る現職教員院生と,これから学校に出てゆく学部新卒院生が共に過ごすことで学びを深めあう，大きな効果が生まれています．

安全に，ほぼ「リアル」な職員室内風の議論ができ，学部も，教科も，経験も，地域も異なる多様な仲間達がそれぞれの専門性を持つ「チームとしての教職大学院」で暮らすことで養われる力量は計り知れません．

長期間の実習によって培われる実践力
（学部での教育実習との違い）

院生の研究テーマにマッチする実習協力校（公立学校）を決定し，めまぐるしく変化する学校現場で，2年間の実践研究(実習)を経験します．

より「リアル」に，職員室の「お客様」でなく「一員」として，現実味のある学校を，実習協力校でインターンシップのように体験しつつ過ごします．

実践研究（実習）はアクション・リサーチであり，多様な課題解決や，現場がどのように解を導いているのかを体験したり，授業がとりあえず「できる」段階から，子ども達を動かす授業が「創れる」段階への成長をめざします．

学級経営，生徒指導の実際や，危機管理や保護者との連携，さらに教育相談など，短期間の教育実習では触れることが難しかった，学校の現実体験に迫り，自己を耕します．

島根･鳥取両県の教育センター等との協働で,「生」の教師と語り合う豊かな時間･空間や，実際に現場の教員たちが受講している研修等への聴講ができる制度などもあり，計画的に参加できます．